



失敗体験は何のため？

9月17日に、第2回こども園ありかた検討会が実施されました。各園から保護者代表の方に参加いただき、保護者の立場での意見をしっかりと伝えていただいています。

その中で、失敗体験が幼児期になぜ必要かわからなかったが、今回色々な説明を聞いてよくわかったという意見がありました。園では、色々な取り組みについて説明していると思っても、十分に伝えられていないということ改めて再認識しました。色々な場面で、伝えていきたいと思います。

失敗体験は何のために必要なのでしょうか？

人生の中で壁にぶち当たることは必ずあると思いますが、いくらまわりが励ましても立ち直るのは本人の力です。幼児期から、失敗したり葛藤を繰り返すことで、自分なりの切り替え方や立ち直り方を体得して行ってほしいという思いが、私の中にはあります。

好きな歌詞に「失敗の数だけ増えようが、間違いなんて誰が笑えようか…『いつの日』が今日の日、目覚めない夢に、訪れる日まで」というフレーズがあります。

失敗しても、夢に向かってつき進める子ども達になるためには、どんな関りが必要か一緒に考えていきたいですね。

園長 長谷部 弥生

避難訓練に伴う引き渡し訓練について

本日は引き渡し訓練へのご協力、ありがとうございました。石川県での災害など、甚大な災害がどこで起こるかわかりません。訓練後はしっかり振り返りをして、大切な子ども達の命を守る行動が取れるように取り組んでいきたいと思ひます。

共育(ともいく)
コーナー

たまげたわい



お辞儀の巻

運動会シーズン真っ盛り。各園にて挨拶をすると、私がお辞儀をした後に、「ちょこん！」と膝を曲げて、腰をかがめて深々と頭を下げ続けるこどもの姿が目をひきました。

日本の礼法では、『思いやりの心』『敬いの心』『慎みの心』を表現するのに“所作”(振る舞い)を大切にしています。“所作”の中で最も重要なのが、相手に対して敬意や感謝の心を表現するために身体を屈める“お辞儀”なのだそうす。そして“お辞儀”は、相手に心を通わせる為のものです。だからこそ、心を通わせる為のポイントは相手とタイミングを合わせることです。

“お辞儀”とは、頭を下げたり、体を傾けたりした瞬間の一場面(すれば良いといった)ではありません。最初から最後まで、一連の“所作”の全てが“お辞儀”であり“礼”だと言われています。そして、“お辞儀”をして元の姿勢に戻っても、相手の心に残るようになりたいですね。

にちなん十色の子どもたちだけでなく大人も含めて、お互いの“お辞儀”に見とれるような町づくり、人づくりを一緒にしていきたいですね。

文責 福岡 裕